

プリーズコート

特長

用途

荷姿

危険情報と安全対策

標準施工仕様

性能試験成績表

プリーズコートは、特殊アクリル樹脂エマルジョンを結合材として用いた水性艶有り塗料です。作業性に優れ、臭気が少なく、安全で、取り扱いが簡単です。この他、半艶の「プリーズコート#30 半艶」、3分艶の「プリーズコート#10 3分艶」があります。

1. 刷毛さばき、塗り継ぎが良好で、レベリングや粘着の問題が極めて少なく、作業性に優れています。
2. 下地への密着性に優れています。
3. 長期に亘って色彩や光沢を失いません。
4. 水性のため、火災や有機溶剤中毒の心配がなく、屋内外で安心して使用できます。

- ① 各種複層仕上げの上塗り
- ② 各種建材の表面仕上げ
- ③ 各種改装工事

プリーズコート(艶有り) 16kg石油缶、4kg缶
(標準塗坪：53~64㎡/16kg缶、13~16㎡/4kg缶)

製品の取扱いは、それぞれの安全データシート(SDS)に従ってください。
ご使用の際には、安全管理に注意して作業を行ってください。

(23℃)

材 料	調合 (重量比)	所要量 (kg/㎡)	塗回数	間隔時間(hr)		備 考
				工程内	最終養生	
*2 プ リ ー ス コ ー ト	100	0.25~ 0.30	2	3以上	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600~1000ml/分 パターン幅：25~30cm
*3.4 清 水	0~15	—				

- ※1. 「所要量」はロスを含みます。被塗装面に付着させる塗料の「標準塗付け量(ロスを含まない)」は、プリーズコートで「0.22~0.24kg/㎡」となります。各材料の使用数量などを算出する際には、「所要量」を基準としてください。
- ※2. 複層仕上げの上塗りに用いる場合は所要量が0.25~0.35kg/㎡(スプレー塗り時は、吐出量:800~1000ml/分 パターン幅:25~30cm) になります。なお、この場合の標準塗付け量は0.22~0.28kg/㎡となります。
- ※3. 清水の希釈率は、スプレー塗り時で「10~15」、ローラー・刷毛塗り時で「0~10」となります。
- ※4. 希釈率は、色相及び施工時の気温により変化することがあります。ご了承ください。
- ※5. 下地の種類により、適切な下塗材の選定が必要となります。特に押出成形セメント板・GRC板・PC部材などには、下塗材として弱溶剤形の★マイルドシーラー-EPO(クリヤー・ホワイト、14kgセット)、または溶剤形の★ミラクシーラー-EPO(15kgセット)をご使用ください。
- ※6. 防火認定仕様は標準塗付け量が基準となります。詳しくは、もよりの各営業所へお問い合わせください。
注) 溶剤形の製品(★印)については、「危険情報と安全対策」をよくお読みください。

試験項目	結 果	規定または試験方法
隠ぺい率%(白及び淡彩)	97	95以上
鏡 面 光 沢 度	83	70以上
密 着 性	100/100	スレート板上での基盤目試験結果
耐 水 性	合 格	96時間浸したとき光沢保持率が80%以上で、塗面に異常がないものとする。
耐 アルカリ性	合 格	水酸化カルシウム飽和溶液に7日間浸したとき光沢保持率が65%以上で、塗面に異常がないものとする。
耐 塩 水 性	異常なし	3%塩化ナトリウム水溶液168時間浸漬
耐 洗 浄 性	合 格	JIS K 5660 6.11 に準拠。1000回の洗浄に耐えるものとする。
耐湿潤冷熱繰返し性	合 格	JIS K 5600-7-4 に準拠 光沢保持率が80%以上で、湿潤冷熱繰返しに耐えるものとする。
促 進 耐 候 性	600時間 合格 耐候形3種相当	JIS A 6909 7.19 促進耐候性試験B法に準拠。
屋外曝露耐候性	合 格	JIS K 5600-7-6 に準拠 12ヶ月の試験で、白亜化の等級は2以下で、割れ・はがれ・膨れ及び穴がなく、色とつやの変化の程度が見本品に比べて大きくないものとする。
安 全 性	消防法分類	非危険物
	有機物区分	適用外

注 意 点

ご使用前には、各製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。

本パンフレットでは、一般的な施工仕様を記載しています。下地の種類及び状況、用途などにより仕様が変わることがあります。詳しくは、もよりの各営業所にお問い合わせいただくか、それぞれの施工要領書を別途ご参照ください。

- ALCパネル、多孔質下地、粗面、その他、下地に問題がある場合には、SFアンダー（20kg石油缶）、カケンフィラー（粉体/20kg袋、混和液/10kg石油缶）、またはミラクフアンドKC-1000（粉体/20kg袋、混和液/5kgポリ容器）などで下地調整を行ってください。なお、改装工事には、ミラクフアンド各種をご使用ください。
- 下地がコンクリートの場合には、付着物などを除去し、下地をよく乾燥させ、含水率10%以下・pH10以下としてください。
- 吸い込みが大きい下地、部分的に下地調整を行った面が他の面と比べて著しい吸い込み差を生じる下地、改装下地、押出成形セメント板、GRC板、PC部材、各種サイディングボード、スレート板など、それぞれに適した下地調整材・下塗材を選択する必要があります。詳しくはもよりの各営業所にお問い合わせください。なお、軽量PC部材への施工は避けてください。
- 各標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工してください。
- 吹付用のコンプレッサーは、2馬力以上のものをご使用ください。
- ローラー塗りはW-2（中毛）ローラーをご使用ください。また、ローラーは一方向だけでなく、上下左右にむらなく運ぶことが、良い施工方法です。また、塗装後、塗膜表面が少し乾いた状態でローラーをかえすとローラー目が生じ、仕上がりが悪くなります。
- 下塗材などで、主剤及び硬化剤がセットされているものは、同一銘柄の材料を使用してください。
- 本品は塗料としての用途以外に使用しないでください。
- 調合は、性能に支障をきたす可能性がありますので、当社指定以外の材料を混ぜないでください。
- 上塗材の希釈率は試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈量で使用してください。なお、希釈率は色おおよび施工時の気温により変化することがあります。ご了承ください。
- 強風時、または降雨、降雪のおそれがある場合、及び気温5℃以下、湿度85%以上での施工は原則的に施工を避けてください。施工が要求される場合は、採暖及び採暖のための養生により、雰囲気温度・被塗面温度を5℃以上にしてください。
- 著しく結露が生じるような場所では塗膜の膨れ、はく離、白化、しみの発生につながる場合がありますので、使用は避けてください。
- 既存塗膜の剥離箇所は、既存のパターンに合うように既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 改装工事に溶剤形の下塗材をご使用の場合は、溶剤などの影響により旧塗膜を侵し、膨れ、ちぢみなどの異常が発生することがあります。試し塗りにより確認の上、本施工に入ってください。
- 防藻、防かび性は繁殖の抑制の効果を示すものです。すでにかびや藻が付着している場合は、これらを除去するなどの適切な下地処理をしてから塗装してください。
- かび、藻が付着している場合は、「SKKカビ除去剤#5（塩素系）」にて拭き取ってください。
- 材料は規定の範囲内の希釈を厳守し、電動ミキサーなどを用いて内容物が均一になるよう十分に攪拌し、開栓後は速やかに一度に使い切ってください。また保管する場合は、無希釈の材料をしっかりと密栓してから直射日光を避けた冷暗所にて保管し、できるだけ早目に使い切ってください。
- 所要量は被塗物の形状、素地の状態、塗装方法、気象条件、希釈率等の各種条件により、増減します。
- 塗り重ね時間は環境（温度、湿度、換気、風通しやすさ）や膜厚によって変わります。
- 低温又は高温時には、乾燥が遅くなりますのでご注意ください。
- 補修塗りの際、仕上がりが肌の違いにより、若干の色相差を生じる場合がありますので、部分的に仕上がりを確認した上で希釈量等を決定してください。
- 刷毛で補修塗りを行う際、スプレー塗りやローラー塗りと仕上がりが肌の違いによる若干の色相差を生じることがあります。
- 艶調整品（艶有り以外の半艶、3分艶、艶消しなど）は、被塗物の形状、膜厚や色相、塗回数、希釈率の差などにより、実際のつやと若干異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時に塗継ぎ箇所で艶ムラを生じやすい傾向があります。試し塗りの上、本施工に入ってください。
- 濃色や原色に近い色彩は、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。
- 上塗りにイエロー、レッド、ブルー、グリーン系など彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、予め隠ぺい性の良い共色を塗装してください。
- 最終養生の時間内に、降雨、結露などがあれば、塗膜の膨れ、はく離、白化、しみの発生につながる場合がありますので、塗装を避けるか強制換気などで表面の水分を除去してください。なお、しみが発生した場合は、乾燥後に水拭きなどで除去してください。
- 陶磁器タイル洗浄用の酸が塗装面に付着すると、変色や溶解などの異常を生じることがありますので、これを防止するため、予め塗装面の養生を行ってください。
- 複層仕上げの仕様を、軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窯業形サイディング及び発泡ウレタンなどを用いた高断熱型外壁に採用する場合は、蓄熱された水、水の影響や下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なることで、パネルの変形や塗膜のふくれ、はがれなどを生じることがあります。ご採用に当たっては、もよりの各営業所にご相談ください。
- シーリング材の上へ施工する場合、シーリング材の種類、材齢により、塗膜が密着しないことや汚染することがあります。詳しくはもよりの営業所までお問い合わせください。
- 荷姿に記載の標準塗坪は一般的なものであり、下地の状態や環境などによる所要量の増減に応じて変わることがあります。ご了承ください。

低汚染機能の発揮条件

（水性セラミシリコン・水性弾性セラミシリコン）

- 施工部位により、低汚染性が十分に発揮されないケースがあります。特に、傾斜壁の下端部、笠木などの水切りのない部位、窓廻りで水切りが不十分な場合、雨がかからない部位などは、注意が必要です。
- 上塗材はむらなく均一に塗付してください。低汚染機能を発揮するためには、塗付量の確保が重要な事項です。特に、凹部に塗り残しができないよう、注意してください。
- 上塗材は所定の乾燥時間（最終養生時間）を厳守してください。施工後、塗膜が乾燥するまでの時間内に降雨などにより、塗膜表面が長時間、水分がかかった状態になりますと、所定の低汚染機能が発揮されない場合があります。低汚染機能は乾燥後の塗膜で発揮されるため、乾燥途中で降雨などが予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に雨が当たらないよう、所定の乾燥時間を厳守してください。
- 施工当日に降雨、積雪、結露が予想される場合は、施工を中止してください。また、気象の急変などにより、施工中、施工後に降雨が生じた場合はシート養生などを行い、塗装面に直接雨が当たらないようにしてください。
- 鉄さび・シーリング材などが原因の汚染物質に対しては、低汚染機能が十分に発揮されません。

危険情報と安全対策

すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないでください。

各種共通

- [応 急 処 置] 蒸気を吸入した場合は、空気の清浄な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。その後、医師の診断を受けてください。
 - 誤飲した場合は、直ちに医師の診断を受け、無理に吐かせないでください。
 - 眼に入った場合は、清浄な水で十分洗い流し、痛みが残る場合は医師の診断を受けてください。
 - 皮膚に付着した場合は、付着した衣服等は直ちに脱ぎ、清浄な水で皮膚を洗ってください。炎症や刺激がある場合は医師の診断を受けてください。
 - 漏出した場合は、漏出物を速やかに回収してください。
- [廃 棄] 廃材、容器、養生材、ウエス等は、自分で破棄・焼却せず、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処分を委託してください。
 - 容器に中身を残したまま廃棄したり、火気を当てたりしないでください。
 - 有害物質を含みますので、排水路・下水・河川への排出及び地下浸透をしないでください。
- [保管及び取り扱い] 容器を密封し、凍結・直射日光を避け、5～40℃の乾燥した換気の良い場所、及び部外者や子供が入りできない場所に一定の管理の出来る場所を定め、施錠して保管してください。
 - 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあり、危険です。（製品の種類によって異なる注意事項は、別途、種類別に記載してありますので、参照してください。）
- [安 全 衛 生] 製品の種類によって異なります。別途、種類別に記載してありますので、参照してください。また、SDS（安全データシート）もご参照ください。
 - 取り扱い後は、洗顔、手洗い及びうがいを十分に行ってください。

溶剤形塗料

溶剤形塗料は特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

- [保管及び取り扱い] 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
 - 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
 - ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
 - 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- [安 全 衛 生] ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
 - 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ② 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - ③ 取り扱い中は皮膚に触れたり、蒸気やミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防塵マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ④ 作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。
 - 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

硬化剤

硬化剤は、特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

- [保管及び取り扱い] 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
 - 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。

- ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
 - 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- [安全衛生]
- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
 - 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ② 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - ③ 取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ④ 皮膚に付着した場合は、速やかに大量の水で洗ってください。また、大量の蒸気を吸入した場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
 - ⑤ 作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。
 - ⑥ 液がこぼれた場合は、中和剤を散布した後で処理してください。
 - 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

希釈用溶剤

溶剤形塗料は特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

- [保管及び取り扱い]
- 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中乾燥中とともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
 - 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
 - ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
 - 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- [安全衛生]
- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
 - 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ② 取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ③ 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

水性塗料

- [安全衛生]
- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。
 - 水性塗料（荷姿に★印のついていない製品）の取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所は換気をしてください。
 - ② 取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。